

2022.11.11

福岡37会

福岡県

四王寺山(しおうじやま)の

ツワブキ、フユイチゴ、キッコウハグマ、紅葉



ツワブキ(艶蔞)  
キク科



フユイチゴ(冬苺)  
バラ科



キッコウハグマ  
(亀甲白熊)  
キク科



2022/11/11 10:37



# 大原山



🕒 タイム    📍 距離    ⬆️ 上り    ⬆️ 下り  
**02:44**    **3.0 km**    **72 m**    **207 m**

**行程：下図のとおり**

距離    行動時間    日時



**四王寺山  
 (しおうじやま)の  
 大原山355m山頂**



**DAY 1**    合計時間 **2時間 44分**

休憩時間	距離	上り / 下り(累積)
<b>47分</b>	<b>3.0 km</b>	<b>72 / 207 m</b>

8:28	<b>S</b>	
8:28		焼米ヶ原登山口
8:31		
<b>57分</b>		
9:28		大原山
9:45		
<b>1時間 26分</b>		
11:11		屏風岩
11:12		
11:12	<b>G</b>	



2022/11/11 9:33  
 大原山355m



2022/11/11 8:28  
焼米ヶ原駐車場



アキノキリンソウ  
(秋の麒麟草) キク科



ブタナ (豚菜)  
キク科 帰化植物



サイヨウシャジン (細葉沙参)  
キキョウ科

宝满山829m

2022/11/11 8:35

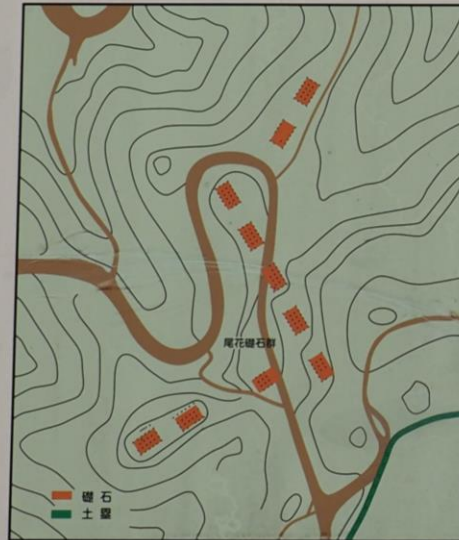


センダングサ(梅檀草)  
キク科

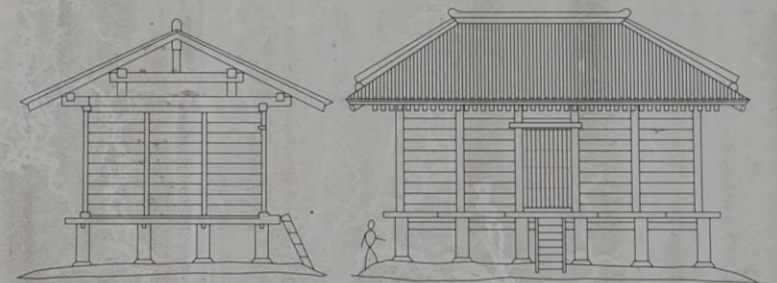
## 特別史跡 大野城跡 尾花地区

ここには10棟の建物の跡が残っている。これらは礎石が各建物の範囲内に基盤目状に配置されており、床を人の背丈ほどに高くし、それを多数の柱で支える建物であった。このようなもので有名なのは奈良・東大寺の正倉院がある。大野城でも倉庫として武器や食糧などの備蓄のために建築されたものであろう。

10棟の建物は、ほぼ南北方向に5棟が一行に並び他の5棟もそれぞれ計画的に配置されている。建物の大きさは梁行6.3m桁行10.5mで統一されている。



### 倉庫復元図



2022/11/11 8:38

2022/11/11 8:39  
焼米ヶ原264m



大野城跡と四王寺山  
四王寺山の名で親しまれるこの山は昔、大野山とも呼ばれ、万葉集にも歌われています。665年には、この山頂全体を城とする大野城が築かれ、大宰府を守る役目を果たしました。延々続く尾根はその時の土の城壁であり、所々に石垣や倉庫跡の痕も残っています。後に四王寺という寺も建てられました。  
福岡県 90

焼米ヶ原

2022/11/11  
8:39

若杉山681m

砥石山826m

2022/11/11 8:49



コマユミ(小檀)  
ニシキギ科 落葉低木



2022/11/11 8:41  
6番 三宝荒神





アケビ (木通) アケビ科  
落葉する性木本



ヤマハッカ (山薄荷)  
シソ科



ノダケ (土当帰、野竹)  
セリ科



ゴンズイ (権萃)  
ミツバウツギ科  
別名：クロクサギ(黒臭木)



ツバキ(艶蔭)  
キク科



ゴンズイ (権萃) ミツバウツギ科  
別名：クロクサギ(黒臭木)



ヤブコウジ(藪柑子)  
ヤブコウジ科 落葉小低木  
別名：十両



オケラ (薊)  
キク科

若杉山681m

2022/11/11 9:13



ヒヨドリバナ(鶉花)  
キク科

頭巾山(とっきんざん)901m



2022/11/11 9:14

遠見所

頭巾山(とっきんざん)901m



三郡山(さんぐんざん)936m→

2022/11/11  
9:16



ヤブコウジ(藪柑子)  
ヤブコウジ科 落葉小低木  
別名：十両



アキノキリンソウ  
(秋の麒麟草)  
キク科



アキノキリンソウ  
(秋の麒麟草)  
キク科



2022/11/11 9:37  
大原山355m



キッコウハグマ(亀甲白熊) キク科



キッコウハグマ  
(亀甲白熊)  
キク科



キッコウハグマ(亀甲白熊) キク科





2022/11/11 9:45



フユイチゴ(冬苺)  
バラ科



キッコウハグマ  
(亀甲白熊)  
キク科

# 小石垣



2022/11/11 10:11

ノコンギク (野紺菊)  
キク科

## 特別史跡 大野城跡 小石垣

大野城は、663年（天智2）白村江の敗戦を期に西日本各地に築かれた山城の一つで、水城・基肆城とともに大宰府を守る役割を担っていた。周囲65mを土塁（高い土手）で取り囲み、谷は石壘（石積みのダム）で塞ぎ、要所に門をつくり城内に武器や穀物を納めたたくさんの倉庫などを作った。

小石垣は城の東北部にあり、二重土塁の内側の石壘である。石壘はほとんど崩れてしまったが、上端幅5m・高さ10m・両岸間30mほどで、水門もあったのだろう。見えている石垣のほか地下に残っている部分がある。

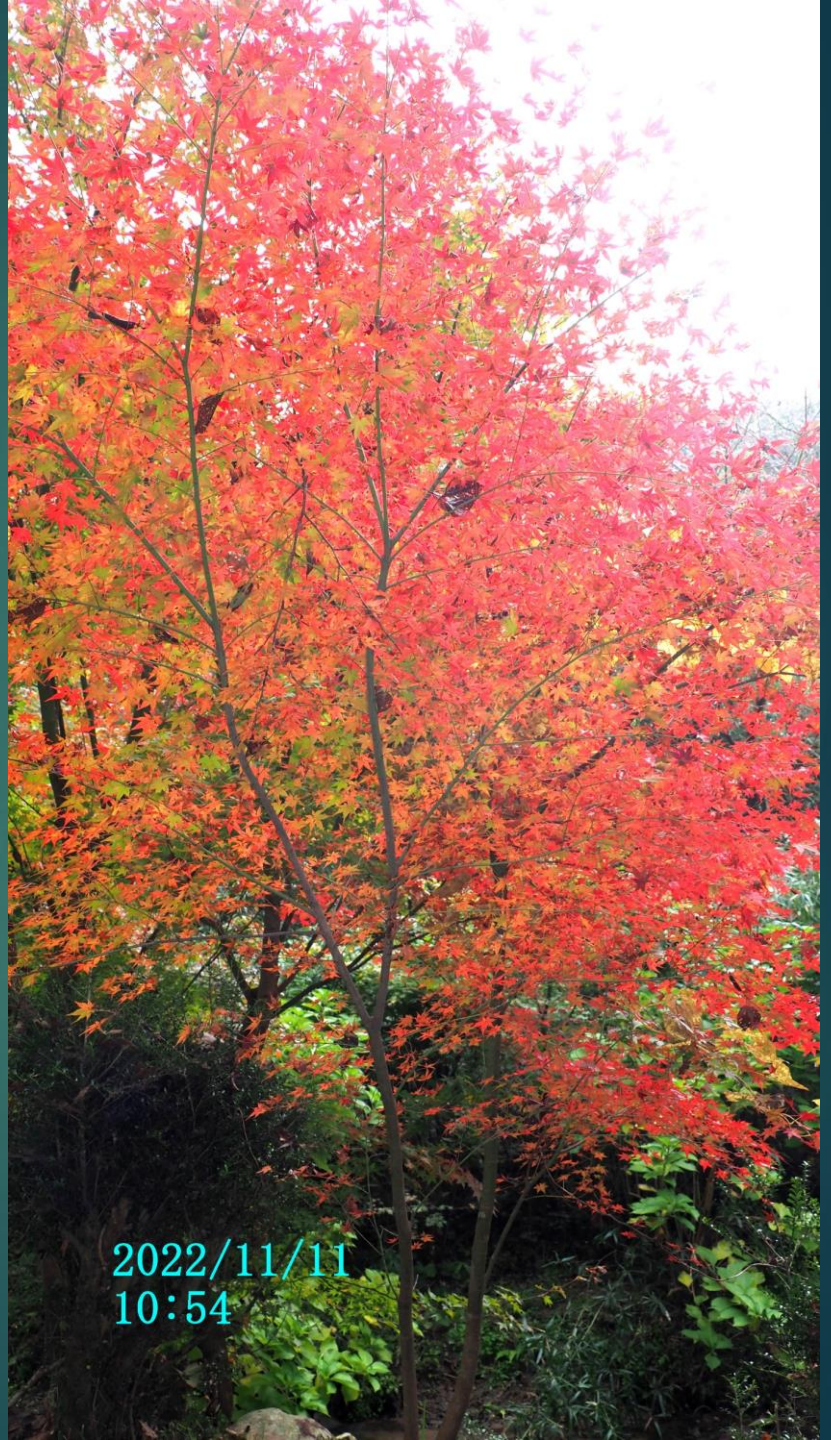


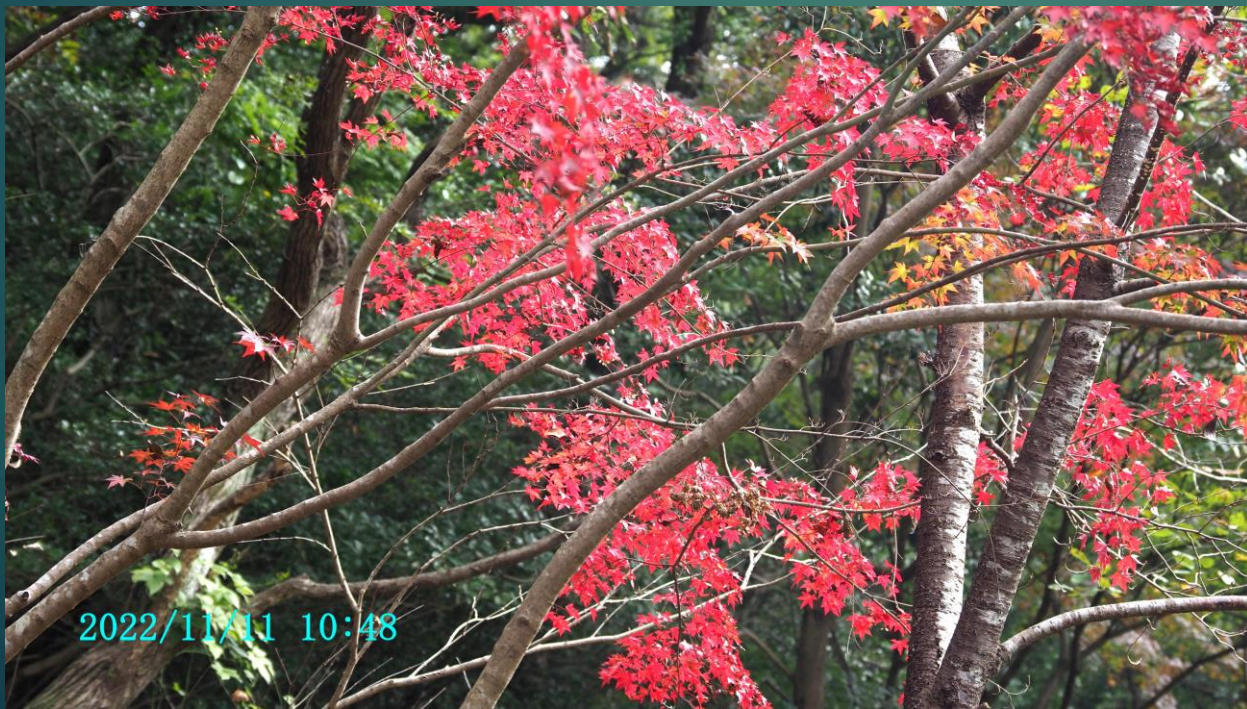
2022/11/11 10:24  
小石垣



2022/11/11 10:34









ラクウショウ(落羽松) スギ科  
別名：ヌマスギ(沼杉) 落葉高木



ラクウショウの気根



ラクウショウの  
気根



カツラ (桂)  
カツラ科





コシアブラ (漉油)  
ウロギ科 落葉高木



2022/11/11 11:05  
鮎返りの滝



2022/11/11 11:14  
百間石垣（デポ地）に到着  
2時間44分の行動時間

朝の集合地の百間石垣



2022/11/11 7:52  
百間石垣

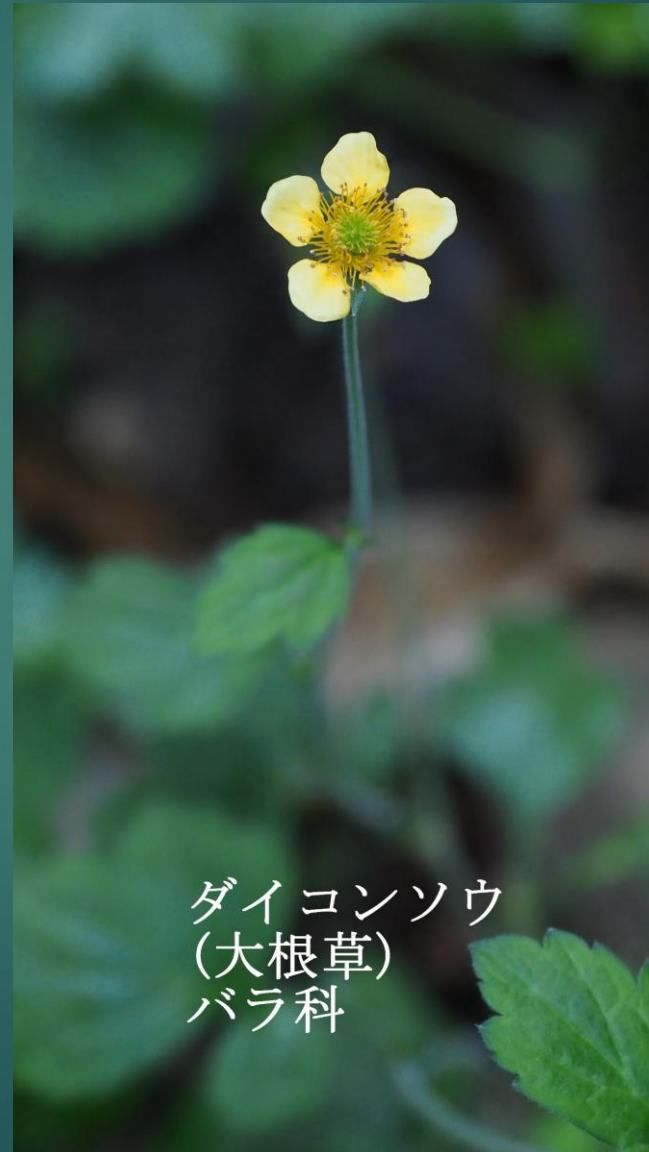
# 朝の集合地の百間石垣



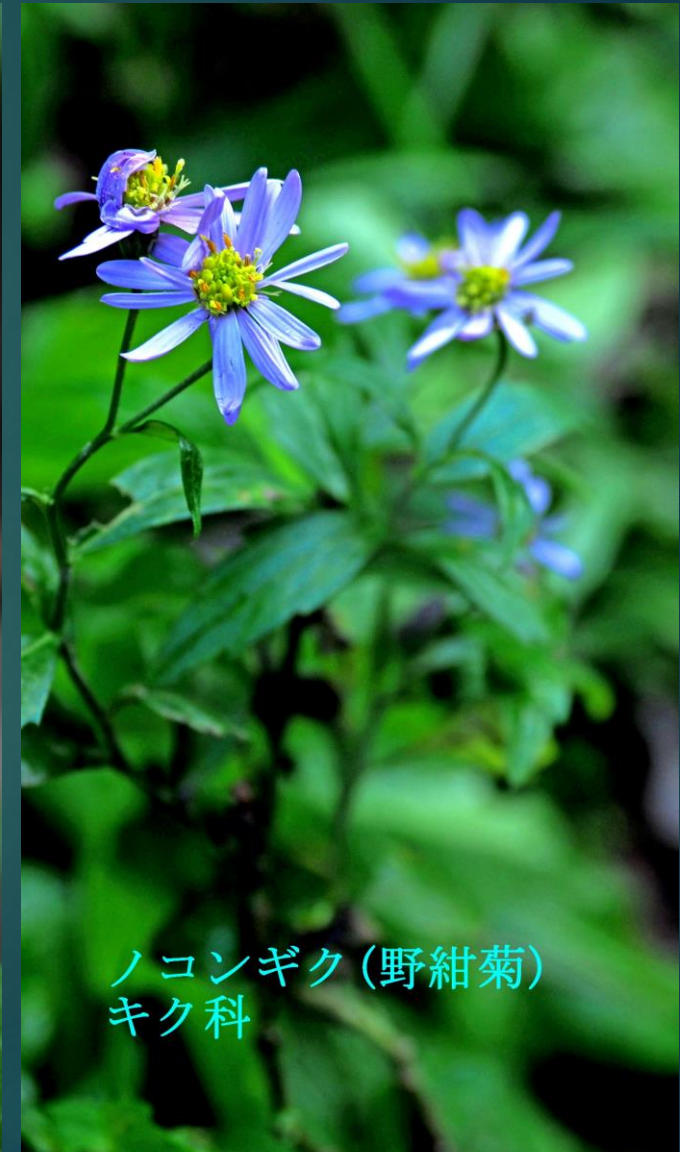
2022/11/11 7:53  
百間石垣



2022/11/117 : 53  
百間石垣



ダイコンソウ  
(大根草)  
バラ科



ノコンギク (野紺菊)  
キク科



2022/11/11 11:29  
焼米ヶ原駐車場（出発地）に戻る

END